

2026年度 一般選抜

国 語

〈全学部全学科共通問題〉

2月23日実施 C日程

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の冊子を開かないでください。
2. 本冊子には、12ページの問題文があります。
3. 解答用紙は、すべてマーク・シートになっています。
4. 監督者の指示で、受験番号欄に受験票に記載されている受験番号（数字6桁）を縦に記入し、それぞれ右のマーク欄にマークしてください。受験番号が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。氏名欄に氏名も忘れず記入してください。
5. 解答科目欄には、解答する科目を1つ選び、マークしてください。
6. 解答は、設問の箇所に指示されている解答番号の解答欄にマークしてください。例えば、と指示されている設問に対して、③と解答する場合は、次の例のように解答番号20の解答欄の③にマークしてください。

(例)

解答 番号	解 答 欄									
20	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 解答番号は～です。～の解答欄には何も記入しないでください。
8. マークは、硬度HB以上の鉛筆を使用し、訂正する場合は消しゴムでていねいに消し、消しくずを残さないように注意してください。
9. 解答時間は、60分です。

問題Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、*の付いた箇所には、文末に注があります。

政治学者の白井聡^あによると、2000年代に新自由主義化の大学へのシフト^aが新段階に入り、「空間の再編」が本格化したという。早稲田大学では地下部室とラウンジのサークル・スペースが廃止され、東京大学では学生自治の駒場寮の学生が強制的に立ち退きを迫られた。

私的空間でも公的空間でもない、「サードプレイス」としてゆるく溜まる空間がなくなり、学生を孤立させ、徹底して管理するようになったのである。白井はこうした曖昧な空間で知性の交流と知的生産が行われていたが、その拠点がなくなり大学が貧しくなったと述べる。【Ⅰ】

本書で見てきたように、公園からの危険性の高い遊具と路上生活者の排除が、大学における不透明な空間の管理と、ほぼ同じ時期に進行していたのは偶然ではあるまい。管理できないものを公共空間から締め出す動きが、あらゆる領域でこの時期に進行したのである。

2010年代を通じて、大学の学びの空間はメディア技術によってさらに厳密に管理されるようになった。公正であることが重視され、教室は透明化し、コロナ禍に入ると加速度的に強まっていったと実感する。むしろ閉鎖的で教員の独裁的管理が横行するのは問題だが、学びの空間が完全に社会に開かれた、透明性の高い場所であるべきだとは必ずしも思わない。【Ⅱ】

それでは、学びの空間は、いかなる場所であるべきなのか。

^ア端的に大学は「半透明」な空間でなければならないと思う。教室は大学の外の社会と違って、ある程度の間違いが許される中間的な空間であるべきだ。学生は日々、間違え、極端な意見を披露し、議論を通して学びを深めていくことができる。ところが、SNS時代に突入し、話したことがそのまま世界へと公開される可能性が出てきた。自己検閲がすでに2010年代に入った頃から次々に生まれはじめた。

さらにLMS^{*1}などのテクノロジーが精度を増すにつれ、システムに強固に管理

されることになった。コロナ禍に入ってビデオ会議システムで簡単にレコーディングされるようになると（あるいは一方的に記録される恐れがあると）、発言が絶えず再帰的なプロセスに巻き込まれ、自己検閲は強まり、教員を含め間違いが許されないような雰囲気が漂う。そしてメディアの特性として、沈黙や無駄に耐えられない場所になっていったのである。

ポストコロナ社会に移行し、対面の教室に戻っても、やはり技術にイキョ^bした経験はなかったことにはできない。デジタルでの出欠管理、無駄をなるべく省いた語り、LMSによる授業の管理を手放すのは難しい。【 III 】

当然、効率化したほうがよい点はたくさんあった。しかしながら、管理化・効率化で学びのすべてを考えていては、人間は育っていかないだろう。なぜなら、一見無駄だと思ふことが教育効果を高めたり、脱線することによって新たな問いの発見につながったり、解けない課題に対峙してもがき苦しんだりする時間が人間を成長させることは、往々にしてあるからだ。【 IV 】

2000年代以降の公園に起こったことと同じことが学びの空間でも起きている。

不安や危険、恐怖の排除である。現在の社会は「悪」を取り除き、「正しさ」を追い求めるフウチヨウ^cが強い。もちろん、大学でも「正しさ」については講じられるべきだが、同時になぜ私たちは「悪」に魅了されるのか、なぜグロテスクなものに崇高な美を感じてしまうのかも議論されなければならない。

A^d、戦慄するような恐怖や「悪」の魅力について、大学では語りにくくなっている。授業は、事前に到達目標や学習計画を定めたシラバスにしたがって進めなければならない。現在の大学では学生が何を学び、どんな経験をするか、計画通りで予定調和な授業がいいとされているのだ。予測できるものとしか出会えない空間では、人生を変えてしまうようなものと遭遇する機会は少ない。

授業ではトラウマになる可能性が少しでもあるものは告知し、未然にトラブルを避けるようになった。リスクやトラブルの回避は、公園に起こったことと同じである。ヴァイオレンスやグロテスクな映像、あるいはエロティックなイメージ

をあつかうときは事前に学生に周知し、不快であれば見なくていいといった配慮をしなければならない。

実際に起こったことを少しだけ紹介しよう。授業でアメリカ同時多発テロ事件をテーマにした短編オムニバス映画『11.09.01ノセプテンバー11』（2002年）の一つ、アレハンドロ・ゴンサレス・イニャリトウの作品を取りあげたとき、人が落下する映像を見せるのは倫理的に問題があるというクレームを受けたことがある。日米映画の映像表現の比較のため、ホラー映画のワンシーンを見せたときもコメントシートに苦情が寄せられた。

既知のものは安心だが、未知なるものは不安で恐ろしい。これは子供の頃、恐ろしいものや危険なものを、大人があらかじめ遠ざけてきたからだろう。だが、現実世界では恐ろしい戦争や凄惨なテロリズム、フジヨウリで残酷な災害が絶えず命を奪っている。若い世代の学生たちは自分の限界を知る貴重な経験を、未然に大人から奪われてきたのである。

学びの場から不安や危険、恐怖といった負の要素で感情を刺激するものが排除されていき、安心でき、刺激の少ない、心地よいものばかりが求められる環境になりつつある。このままでは負の感情を引き起こすものに遭遇したとき、自分の感情ときちんと向きあえなくなる。

そのためにも、成人したあとの学びの場では、危険な遊びで自らの限界を B 的に知ると同じく、不快なもの、恐ろしいもの、不安にさせるものと少しずつ出会う機会を作ったほうがいだろう。

インターネット時代からソーシャルメディア時代になった2010年代に、新自由主義の思想を基盤に、ビジネスに役立つサバイバルツールとしての教養をいかに効率よく取り込むかという「スピード感」「コスパ」が重視されるようになった。

本来、教養を身につけるには膨大な時間がかかるが、「情報」としての教養を他人よりも早く手にすることが価値をもつ「ファスト教養」の時代には、どれだけ無駄なく簡単に身につけるかが求められる。

こうした時代を生きる者は、無駄を省いてよい結果を得るには何をすべきかという思考からなかなか逃れられない。だから効率よく、負荷なく「わかる」体験を求める。

受け手のレベルに合わせて、難解なことや複雑なことを、わかりやすく簡潔に伝えられる技術が「知的」だと重宝されるようになったのも、ソーシャルメディア時代に突入した^エ2010年代的な価値観である。

かつての大学の講義は、Cの教師が受講生を圧倒するような知識を披露したり、学生のレベルをはるかに超えた難解な議論が展開されることも少なくなかった。だが、いまの大学の環境では、こうした授業は、独りよがりで知的でない振る舞いと見なされる傾向にある。

いまは暇を与えず課題やアクティヴ・ラーニングで効率よく知識が身についたような気にさせるほうが優勢である。話法がユーチューバー化する、あるいは予備校化する教員が増え、「つまらない」と思わせない授業が多くなった。長い目で見た教養ではなく、その場で身についた知識で「わかる」体験を与えるようになったのだ。

だが、大学は本来、「わかる」ことばかりを積み重ねていくだけではなく、「わからなさ」と向きあう場所でもある。いや、大学こそ後者を「知恵」として涵養する場所のはずだった。何かを知る、わかる、というのも大事だが、大学ではむしろ、当然だと思っていたこと、前提である知識を疑うことが何より必要になる。

だから課題を発見し、「問いを立てる」ことの重要性が執拗に叫ばれる。予備校が大学合格を目的としているのに対して、大学はそれ以上に、問題を見つけ、いかに乗り越えるかを考えることに時間をかけるのだ。

しかしながら、実際の授業では、教員がいい淀み、「わからなさ」を表明し、一緒に考えてほしいと投げかけると、授業評価アンケートで「何が結論かわからない」「きちんと答えを教えてほしい」「わかりやすく解説すべき」と返ってくる。

(中略)

^エそれでは、私たちは学びの場をどのように作り替えていけばよいだろうか。現

代の子供たちは、テクノロジーによって日常生活の大部分が管理されている。学校が終わっても習い事や塾で時間は埋めつくされ、GPSつきの携帯で居場所を把握する親も多い。安心・安全のためのテクノロジーが行き渡り、子供は大人の管理（まなざし）から逃れることはほとんどない。かつては大人から切り離された子供だけの「放課後の時間」がたくさんあった。

親の目から解放されて、自分たちだけで過ごす特別な時間だ。もっと管理の行き届かない、放課後のような時空間を社会に作っていく必要がある。家庭でも学校／職場でもない、人びとがゆるく出入りできる雑然とした居場所を、身の回りに増やしていかなければならない。

D。個人的な話になるが、大学院の私の研究室では、公式のゼミ以外に教員不在の「サブゼミ」をやるように勧めている。強制ではなくユウシ^eだが、公的でも私的でもない中間のコミュニティで研究発表をやったり、読書会をやったりする半公的な活動で、外部の学生も参加しているらしい。学生室にはラウンジ・スペースを作り、好きに集まって雑談できるようにしている。

公式ゼミは発表と議論の時間が厳密に定められているが、サブゼミは真面目に研究の話をするだけでなく、雑談や近況を語りあう「ゆるい場」だ。私も同じように大学院時代に「サブゼミ」をユウシ^eでやっていた。経験上、教員に管理され指導されるゼミとは違って、こういうコミュニティは豊かなアイデアが生み出される利他的な居場所だった。研究のアイデアは、こうした場所で深まっていったといっても過言ではない。

そもそも大学における研究という営み自体、実は利他的なもので成り立っている。研究者も学生も、世界中から論文を通して多くの知識を受け取っている。同時代の人間だけではない。先人たちからの膨大な知を享受し、それを学会発表や論文というかたちで返す。こうした知の交換は、目の前にいる相手をはるかに超えて、予想外の人びとまで届く。

研究とは自ら解き明かしたい問題を探究する行為だが、それが同時に他者の属する学問領域への貢献となる。予想していなかった人びとにまで届き、その人の人生に影響することがある。すなわち、研究活動には「自利他」の構造が本質

的に宿っているのだ。

(北村匡平『遊びと利他』)

[注] * LMS…Learning Management Systemの略。eラーニングなどで、教員が学生の成績や学習を管理するためのシステム。

問一 傍線部 a ～ e に相当する漢字を含むものを、次の①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

a シントウ (1ページ本文1行目)

- 1
- ① 準決勝にシンシュツする。
 - ② 緊張でシンケイをすり減らす。
 - ③ 台風で家がシンスイする。
 - ④ 意味がシンチヨウな文章だ。

b イキョ (2ページ本文6行目)

- 2
- ① 体調にイベンを感じる。
 - ② イセイのいい若者に出会う。
 - ③ 代理人に権限をイニンする。
 - ④ 親にイヅンした生活を送る。

c フウチヨウ (2ページ本文18行目)

- 3
- ① 景気がタイチヨウする兆しがある。
 - ② 彼の知識は周囲にチヨウホウされている。
 - ③ 故人に向けてチヨウシを読む。
 - ④ まな板の上にホウチヨウがある。

d フジヨウリ (3ページ本文11行目)

- 4
- ① 山のチヨウシヨウに到達する。
 - ② 作物のヨシヨウを蓄える。
 - ③ 商売がハンシヨウする。
 - ④ カシヨウ書きでメモを取る。

e ユウシ (5ページ本文11行目)

- 5
- ① 人気のザツシを購読する。

- ② ひそかに胸中にタイシをいただく。
- ③ 三時から試合がカイシする。
- ④ 歴史上でもクツシの作家である。

問一 傍線部ア「半透明」な空間」の説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 6
- ① 閉鎖的な教室で学生たちが知的生産を行うようなかたちではなく、大学の外からも教室の内部が見えるように可視化された空間。
 - ② 社会に開かれ、適度に透明化されていることにより、独裁的な管理の横行を防ぎつつ、健全な管理が可能になっているような空間。
 - ③ 間違えたり、極端な意見を言ったりすることを含む知的交流を行うことができる、私的空間でも公的空間でもない中間的な空間。
 - ④ LMSなどの技術を積極的に導入し、教員による一方的な管理指導ではなく、教員と学生の双方向的な発言が許されている空間。

問二 次の一文が入る最も適切な場所を、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

テクノロジーによって、いったん効率を手に入ると、それを捨て去るのは簡単ではないからだ。

- 7
- ① 【 I 】
 - ② 【 II 】
 - ③ 【 III 】
 - ④ 【 IV 】

問四 空欄 A に入る語として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 8
- ① だからこそ
 - ② 言い換えると
 - ③ 結論を言えば
 - ④ けれども

問五 傍線部イ「戦慄するような恐怖や「悪」の魅力」とありますが、それを大
学で議論することが重要なのはなぜですか。その説明として適切でないもの
を、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 9
- ① 予測不可能な、人生を変えてしまうようなものと遭遇する機会にな
るから。
 - ② 恐怖や悪を熟知することで、未然にトラブルを回避できるようにな
るから。
 - ③ 若い世代の学生たちにとって、自らの限界を知る貴重な経験になる
から。
 - ④ 負の感情を引き起こすものに遭遇したとき、自分の感情ときちんと
向きあえるようになるから。

問六 空欄 B に入る語として最も適切なものを、次の①～④の中から
一つ選び、番号で答えなさい。

- 10
- ① 経験
 - ② 先天
 - ③ 間接
 - ④ 効率

問七 傍線部ウ「2010年代的な価値観」の説明として適切でないものを、
次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 11
- ① 受け手のレベルに合わせて、難解なことをわかりやすく伝える技術
を「知的」とみなすこと。
 - ② 「コスパ」を重視し、ビジネスに役立つサイババルツールとしての
教養を効率よく取り込むこと。
 - ③ 「わからなさ」に向き合うことを通じて、当然だと思っていたこと、
前提である知識を疑うこと。
 - ④ 「情報」としての教養をどれだけ無駄なく簡単に他人よりも早く身
につけるかを考えること。

問八 空欄 C に入る四字熟語として最も適切なものを、次の①～④の

中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 12 ① 博覧強記 ② 有名無実 ③ 夜郎自大 ④ 曲学阿世

問九 傍線部エ「それでは、私たちは学びの場をどのように作り替えていけばよ
いだろうか」とありますが、この問いに対する筆者の本文中での回答として
最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 13 ① 学生たちに、公式のゼミ以外の「サブゼミ」にも強制的に参加させる
ことで、自ら学びを深めていく時間を無理やりにでも作り出すこと。
② 家庭でも学校／職場でもない、人びとがゆるく出入りできる、管理
から離れた雑然とした居場所を自身の周囲に増やしてゆくこと。
③ むやみに難解な議論をするのではなく、たくさん課題やアクティヴ・
ラーニングで効率よく知識を身につけられるように工夫すること。
④ 管理の目のまったく届かない、完全に私的で閉ざされた空間を社会の
中に生み出すことにより、安心した状態で自身の学びを深めること。

問十 空欄 D に入る文として最も適切なものを、次の①～④の中
から一つ選び、番号で答えなさい。

- 14 ① 大学も同じである
② 大学となると事情は逆だ
③ 大学ではいっそう悲惨である
④ 大学はそれとは関係なく存在している

問十一 本文の内容と一致するものを、次の①～④の中から一つ選び、番号で
答えなさい。

- 15 ① ポストコロナ社会では、管理できないものを公的空間から締め出す動
きが生まれ、公園から危険性の高い遊具と路上生活者が排除された。
② 学びを管理化・効率化することで、無駄や脱線を排除し、解けない
問題にもがき苦しむような時間を削減することが成長をもたらす。

- ③ エーチューバー化、予備校化する教員が増え、「つまらない」と思わせない授業が多くなった結果、大学での学びの質の向上に繋がった。
- ④ 研究とは、自らが解明したい問題を探究する行為であるとともに、その成果を論文などで他者や社会に返していく「自利利他」的なものだ。

問題Ⅱ 次の各問について、その解答を選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

問一 次の①、④は体の一部を表す語が入る慣用句です。空欄に入る語が他と異なるものはどれですか。

- 16 ① □が遠のく ② □が出る
③ □がすくむ ④ □が浮く

問二 次の四字熟語の空欄に入る語として、最も適切なものはどれですか。

- 17 朝令暮□
① 改 ② 快 ③ 怪 ④ 海

問三 次のことわざの意味として、最も適切なものはどれですか。

- 18 馬子にも衣装
① お金をかける意味がないことにまでお金を使うということ。
② 内面を磨くには形から入らなければならないということ。
③ どんな人でも身なりを整えれば立派に見えるということ。
④ 細かいことにこそお金をかけるべきだということ。

問四 次の空欄に入る敬語表現として、適切なものはどれですか。

- 19 「お客様、こちらの商品の注意事項は□□□□。」
① ご確認申し上げましたか
② ご確認しましたか
③ ご確認なさいましたか
④ ご確認いたしましたか

問五 次の空欄に入る動詞として、適切なものはどれですか。

- 20 新進作家として脚光を□□□□。

- ① 集める ② 浴びる ③ さらす ④ 見る

問六 次の熟語のうち、二字ともに音読みでないものはどれですか。

- 21 ① 俊敏 ② 稲作 ③ 寡作 ④ 朗読

問七 筆者を女性に仮託することで知られる『土佐日記』の作者は誰ですか。

- 22 ① 紀貫之 ② 小野小町 ③ 藤原定家 ④ 鴨長明

問八 鎌倉時代に成立した作品でないものはどれですか。

- 23 ① 徒然草 ② 方丈記 ③ 今昔物語集 ④ 平家物語

問九 言文一致体で書くことを試みた最初期の近代小説『浮雲』の作者は誰ですか。

- 24 ① 坪内逍遙 ② 二葉亭四迷 ③ 尾崎紅葉 ④ 幸田露伴

問十 谷川俊太郎の詩集はどれですか。

- 25 ① 青猫 ② 智恵子抄 ③ 邪宗門 ④ 二十億光年の孤独

【受験番号 及び 氏名の記入方法】

1. 受験票に記載されている、受験番号を確認する。
2. 解答用紙 左上の受験番号欄に、先頭に◎がある受験番号の数字を縦に記入し、マーク欄にマークする。

《例》

花園大学入学試験 受験票

フリガナ		
氏名		
生年月日		
試験日		
入試制度		
学部学科 受験番号	学部学科	受験番号
		◎ 187205
		345678
		789123
試験会場		

※試験当日は、◎の付いた受験番号の座席で受験してください

花園大学入学試験 解答用紙

受験番号		受験番号【併願1】	

受験番号

第1志望学科の受験番号は、
解答用紙 左上の欄に記入する

受験番号										
1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
8	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
7	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
2	0						6	7	8	9
0	0						6	7	8	9
5	0						6	7	8	9

《例》

受験番号を縦に
記入し、該当の
数字をマークする

3. <同一試験日に2学科を併願している(受験票に番号が2つ記載されている)場合>
上記2に加え、解答用紙 右上の受験番号【併願1】の欄に、第2志望学科(◎のない)の受験番号を記入し、マークする。
4. <同一試験日に3学科を併願している(受験票に番号が3つ記載されている)場合>
上記3に加え、解答用紙 右上の受験番号【併願2】の欄に、第3志望学科の受験番号の数字を記入する。

《例》

受験番号
◎ 187205
345678
789123

花園大学入学試験 解答用紙

受験番号		受験番号【併願1】	

受験番号

併願2

第2志望学科の受験番号を
【併願1】に記入・マークする

第3志望学科の受験番号のみ
【併願2】に記入する

5. 氏名欄に氏名(漢字)を記入する。